

キルギスの高等教育機関における日本語専攻課程のカリキュラム分析 —非母語話者教師養成の観点から—

西 條 結 人

1. はじめに

近年の日本国内の日本語教師養成めぐっては、文化審議会国語分科会（2019）において、日本から海外に派遣される初任日本語教師の資質・能力について示され、赴任国・地域の教育文化についての知識を持つことや現地の日本語教師への支援を行う能力が求められている。これまでの研究において日本から海外に赴任する日本語教師の課題として、無自覚に日本の価値観をあてはめ、現地の人々や教育を否定的に評価すること（佐久間、2014）や、国際交流基金（JF）や国際協力機構（JICA）の日本からの派遣教師が現地の教師教育、教育改善を目的に、科学的に望ましい教授・学習スタイルを提言したとしても、赴任国の教師に広く共有されている文化と乖離する場合には受容されにくいこと（平畑、2014）が指摘されている。海外の日本語教育では、当該国・地域で教師が教育を受けた場合、過去の自身の言語教育の経験が実践に影響を与えることや（横山、2019）、優れた日本語教師像のような日本語教師観も国や地域によって異なることが明らかになっており（縫部他、2009等）それぞれの国や地域に特有の教育文化が形成されていることが窺える。日本から派遣される日本語教師は赴任国・地域の教育文化を踏まえた支援を行うことが求められる。特に、途上国での教育開発支援においては、現地の教育文化の特質を踏まえた援助でなければ、持続可能な支援にはならない（添田、2012）。そのため、海外の日本語教育現場で働く教師が、どのような教育文化的な背景を持ち、どのような日本語教育課程を経て教職に就いているのかを把握しておくことは重要であると考えられる。

そこで、本研究では、キルギス共和国（以下キルギス^(註1)）の高等教育機関における日本語専攻課程のカリキュラムの実態を報告し考察する。キルギスを研究対象とする理由は次の2点である。第一にキルギスは日本のODA対象国であり、これまでも日本からJFやJICAを中心に多くの母語話者教師が指導的立場で派遣されており、現地の非母語話者教師に現地での教育方法を提言する機会や、非母語話者教師と協働することが多くある点である。第二に、現地採用の日本語母語話者教師が圧倒的に少なく、非母語話者教師が主体となって活動していることから、現地の日本語専攻課程のカリキュラムから日本語非母語話者教師養成を検討するための典型例として優れていることによるためである。

国際交流基金（2020）によれば、キルギスの2018年度の日本語学習者数は1,606人で、

そのうちの 388 人が高等教育機関で日本語を学んでいる。キルギスの日本語教育の課題としてヴォロビヨワ (2013) は、(1)日本語教師を育てる国内制度がないこと、(2)日本語教材が不足していること、(3)設備不足で日本語教育環境が整っていないこと、(4)卒業生が日本語の知識を生かせる仕事が非常に少ないことの 4 点を指摘している。キルギスの日本語教師に関する状況を見ると、キルギス国内の日本語教師は、国立高等教育機関を中心に教師待遇等に起因する離職が多く、優秀な教師や研究者の人材流出も重なり慢性的な教員不足の状態にある (氏原、2015；西條、2021)。また、現地機関が直接採用している日本語母語話者教師は少なく (キルギス共和国日本語教師会事務局によれば、2019-2020 年度会員ではビシケク国立大学東洋国際関係学部日本語日本文学講座 1 名となっている)、非母語話者教師が現場では多数を占め、日本語教育の中心を担っている (西條、2020)。キルギスの教育機関で働く母語話者教師の多くが JF の日本語専門家や、JICA の JICA 海外協力隊員等を中心として 2 年程度の有期での派遣教員であり、指導的立場として母語話者教師が非母語話者教師と協働しながら教育開発支援を行っていることもキルギスの日本語教師事情の特徴であろう。

2. 先行研究

本研究では海外の大学における日本語専攻課程のカリキュラムから日本語非母語話者教師養成の検討を行うため、海外の日本語教師養成課程を有する高等教育機関の事例研究を中心に扱う。

海外の教育機関における日本語教師養成課程に関する研究としては、ニュージーランドの日本語教師養成課程の事例報告をしている縫部 (2007)、オーストラリアの日本語教師養成課程を分析している縫部 (2008)、韓国の大学における日本語教師養成課程を分析している李 (2008) 等が挙げられる。ニュージーランドとオーストラリアでは教育学系の学部の中に日本語教師養成課程が設置されていたり、初等・中等教員の養成課程のカリキュラム内に日本語教育課程が組み込まれていたりしている (縫部、2007；2008)。韓国では日本語学科のような日本語専攻課程に加え、教職を選択履修することで日本語教師資格を得る場合と師範大学の日本語教育学科にて日本語教師資格を得る場合の 2 つのパターンがあることが明らかになっている (李、2008)。

縫部 (2007) (2008)、李 (2008) のいずれの研究も、高等教育機関に日本語教師養成課程が設置されている国の事例研究であり、日本語教師養成課程が教育機関に設置されていない国や地域の日本語教師養成の実態は明らかにされていない。高等教育機関等に日本語教員養成課程が未設置の国や地域においても、日本語教育が実施されていれば、当該国・地域には日本語教師が存在することが考えられ、日本語専攻課程のカリキュラム等からその実態を明

らかにすることも必要であると考えられる。

そこで、本研究の目的は、次の2点である。第一は、日本語教師養成課程が設置されていないキルギスにおいて、日本語教師となる人材がどのようなカリキュラムを受け、日本語教師の職に就いているのか、実態を明らかにすることである。第二に、キルギスの高等教育機関の日本語専攻課程を日本語非母語話者教師養成という観点から検討することで、キルギスにおける日本語教師養成の課題を明らかにする。海外の非母語話者教師がどのような教育課程を経て日本語教師になっているのか、その教育課程を明らかにすることは海外における日本語教師養成の1つの事例として報告することができ、海外の日本語教師養成および教師教育の改善と充実につながると考えられる。

3. キルギスの高等教育機関における日本語専攻課程

本節では、学士課程、修士課程に日本語専攻課程が設置されているビシケク国立大学東洋国際関係学部及び同大学大学院東洋国際関係学研究科のカリキュラムを事例として提示し、検討を行う。ビシケク国立大学の日本語専攻課程を事例とする理由としては、日本語教師養成を目的とした専門教育課程が設置されていないキルギスにおいて唯一、日本研究のための研究組織として日本語日本文学講座を有しており、学士課程及び修士課程で日本語を専攻言語として選択可能な課程が設置されている高等教育機関であることによる。なお、当該機関での学士課程、修士課程でどのような教育研究成果を挙げているかについては、西條・ジュメシャリエワ (2018) が詳しい。

3. 1. 学士課程における日本語専攻課程

2020-2021年度ビシケク国立大学東洋国際関係学部の日本語専攻入学生は、言語学（異文化コミュニケーション論分野、外国語・外国文化教育の理論・方法論分野）、国際関係論（外交政策分野、外交・領事事務分野）、東洋学（東洋言語・文学分野、東洋史学分野、東洋経済学分野）の3専攻7分野のいずれかを専門とし、日本語を専攻言語として学んでいる。

キルギスの高等教育における学士課程の教育内容は、キルギス共和国教育科学省「キルギス共和国の高等専門教育における国家教育スタンダード」で規定されている。2021年4月現在で運用されている「キルギス共和国の高等専門教育における国家教育スタンダード」2015年版によれば、学士課程の標準単位数は240単位と規定されており、その240単位は「1. 人文学、社会学、経済学分野（34-36単位）」「2. 数学、自然科学分野（12-14単位）」「3. 専門分野（168-172単位）」「4. 体育（400時間）」「5. 実習及び（もしくは）科学研究（12単位）」「6. 卒業判定国家資格審査（6単位）」の6つのカテゴリーの科目群から成る。（キ

ルギス共和国教育科学省、2015a；2015b；2015c)。「1. 人文学、社会学、経済学分野」「2. 数学、自然科学分野」「3. 専門分野」の科目については、国家教育スタンダードで教育目標と教育内容が規定されている基盤科目と機関の裁量で決められている選択科目により構成される。それぞれの専攻は、開設している高等教育機関ごとに国家教育スタンダードでの規定に沿って、単位数や授業科目が決められている。

3. 1. 1. 言語学専攻

キルギスの大学における学士課程言語学専攻の教育内容の原則は、キルギス共和国教育科学省（2015a）「キルギス共和国の高等専門教育における国家教育スタンダード 531100 学士課程言語学専攻」で規定されている。国家教育スタンダードに基づく 2020-2021 年度のビシケク国立大学東洋国際関係学部言語学専攻の科目一覧を本稿末尾の資料 1 に示す。言語学専攻の学生は異文化コミュニケーション論、もしくは外国語・外国文化教育の理論・方法論分野のいずれかの分野を選択し、その分野の科目を履修することになる。他専攻にはない言語学専攻の特色としては 660 時間 22 単位を「第二東洋言語」（第 3、第 4、第 5、第 6、第 7、第 8 セメスター）として、東洋国際関係学部で開講されている朝鮮語、トルコ語、アラビア語、ペルシャ語のいずれか一言語を選択して学習することが挙げられる。

資料 1 から言語学専攻のカリキュラムは専門基盤科目の「第一外国語演習」、それぞれの専門分野の 1 科目である「第一外国語運用演習」を主として、専攻言語の学習がカリキュラム総時間 7,200 時間のうち、2,250 時間と全体の 3 割程度が第一外国語（日本語）の学習に充てられていることが窺える。「第一外国語演習」は第 1 セメスターから第 6 セメスターまで配置され、「第一外国語運用演習」は、第 6 セメスターから第 8 セメスターに配置され、日本語教育が行われている。第 1 セメスターから第 4 セメスターまでは「キルギス語キルギス語文学」（第 1、第 2 セメスター）、「ロシア語」（第 1 セメスター）、「キルギス史」（第 2 セメスター）等の人文学、社会学、経済学分野科目、「環境科学」（第 2 セメスター）や「数学・情報科学」（第 3、第 4 セメスター）といった数学・自然科学分野科目が中心となって組み立てられており、専門分野の科目は「第一外国語演習」や「東洋言語史」（第 1 セメスター）、「異文化コミュニケーション論」（第 1、第 2 セメスター）といった基礎的な内容の科目が配置されている。第 5 セメスターからは専門分野重視の科目配置になっており、「東洋言語研究原論」（第 5、第 6、第 7 セメスター）、「対照言語学・類型論」（第 5 セメスター）、「通訳・翻訳論」（第 5 セメスター）、「研究原論」（第 5 セメスター）、「外国語教授法・方法論」（第 5 セメスター）、「外国語教育学原論」（第 7 セメスター）、「文法論」（第 5、第 6 セメスター）、「語彙論」（第 7 セメスター）といった専攻言語を対象とした異文化コミュニケーション論や外国語・外国文化教育の理論や方法に関する科目が配置されている。第 1 学年から第 3 学年

までの各学年の後期にあたる第2、第4、第6セメスターには「学年専門研究」が配置されており、専攻学生個々の関心に応じた研究を行うことになっている。

外国語・外国語文化教育の理論と方法論分野における科目については、日本語の運用と言語学的知識の獲得が重視されており、「外国語教育学原論」などの外国語教育の理論や方法を学ぶ科目については、専門分野・領域科目 2,250 時間のうち、210 時間と専門分野科目全体の 1 割にも満たない構成になっている。また、「外国語教育学原論」、「外国語教授法・方法論」については東洋国際関係学部以外の専攻言語（朝鮮語、トルコ語、アラビア語、ペルシャ語）を専攻している学生と共に受講する科目であるため、日本語教育に特化した科目ではない。このことから、言語学専攻では専門分野として外国語・外国語文化教育の理論・方法論分野が設置されているが、カリキュラムでは日本語の運用と言語学的知識の獲得が重視されている一方で、日本語教育の専門的知識の獲得という点においては課題があると考えられる。キルギスの現職日本語教師は手探りの状態で日本語を教えていることが多いことから（ヴォロビヨフ、2013）、日本語の運用、言語学的知識の獲得だけでなく、日本語教育の理論とともに、学習目的や対象者別に合わせた日本語教育の方法と実践力を養成する科目を充実させる等の見直しが必要であろう。

3. 1. 2. 国際関係論専攻

キルギスの大学の学士課程国際関係論専攻の教育内容の原則は、キルギス共和国教育科学省（2015b）「キルギス共和国の高等専門教育における国家教育スタンダード 530800 学士課程国際関係論専攻」で規定されている。

国家教育スタンダードに基づく 2020-2021 年度のビシケク国立大学東洋国際関係学部国際関係論専攻の科目一覧を次の資料 2 に示す。国際関係論専攻は、外交政策分野と外交領事事務分野の 2 つの専門分野のいずれかを専攻する。

外交政策分野と外交領事事務分野における日本語学習は「専攻外国語（第 1 レベル）」「専攻外国語（第 2 レベル）」で行われており、240 単位 7,200 時間のうち 72 単位 2,160 時間が配当されている。「専攻外国語（第 1 レベル）」は前半の第 1 セメスターから第 4 セメスターに配置され、「第一外国語運用演習（第 2 レベル）」は、後半の第 4 セメスターから第 8 セメスターに配置され、日本語教育が行われている。特に、専門分野科目では 68 単位 2,040 時間のうち、36 単位 1,080 時間が「専攻外国語（第 2 レベル）」の日本語学習時間に充てられており、専門教育と並行して日本語教育が重視されていることが窺える。また、国際関係論専攻では、言語学専攻学生が第二東洋言語を選択、学習するのは異なり、人文学、社会学、経済学分野科目で「外国語（英語）」を第 1 セメスターから第 2 セメスターで 4 単位 120 時間学習するとともに、専門分野科目においても「第二外国語」として第 1 セメスターから第

6 セメスターに 22 単位 660 時間が配当されている。言語学専攻と同様に、各学年の後期にあたる第 2、第 4、第 6 セメスターには「学年専門研究」が配置されており、専攻学生個々の関心に応じた研究を行うことになっている。国際関係論専攻の開講科目の特色としては、言語学専攻や東洋学専攻とは異なり、専門分野科目において、キルギスと諸外国の国際関係や、外交、領事に関する実学的な専門分野科目が多く、専攻地域（日本）を学習する科目は少なく配置されていることが挙げられる。外交政策分野では「外交政策と外交」（第 2 セメスター）、「外交儀礼とエチケット」（第 4 セメスター）、「ユーラシア経済同盟：国内政治と外交政策における統合」（第 7 セメスター）のように専攻言語・地域の国際関係に関する科目は少なく、アジア地域に特化した科目は「アジアの近代化プロセスと変化」（第 4 セメスター）の 1 科目のみであることが窺える。外交領事事務分野については、専攻言語・地域に関する科目は科目名称からは見受けられず、「キルギスの外交政策理念と外交・領事事務の課題」（第 2 セメスター）、「国際法」（第 7 セメスター）、「キルギス外交史」（第 7 セメスター）といったキルギスの外交と領事事務に関する科目が配置されている。

3. 1. 3. 東洋学専攻

キルギスの大学の学士課程言語学専攻における教育内容の原則は、キルギス共和国教育科学省（2015c）「キルギス共和国の高等専門教育における国家教育スタンダード 530900 学士課程東洋学専攻」で規定されている。

国家教育スタンダードに基づく 2020-2021 年度のビシケク国立大学東洋国際関係学部国際関係論専攻の科目一覧を本稿末尾の資料 3 に示す。東洋学専攻は、東洋言語学・文学分野、東洋史学分野、東洋経済学分野の 3 つの専門分野から成る。資料 3 から、東洋言語学・文学分野、東洋史学分野、東洋経済学分野の日本語学習は専門基盤科目の「専攻東洋言語」で行われており、72 単位 2,160 時間が配当されている。この配当時間は専門基盤科目 100 単位 3,000 時間の約 7 割であり、専門科目全体 166 単位 4,980 時間においても約 4 割を占めていることから、言語学専攻、国際関係論専攻と同様に、カリキュラム全体で日本語学習が重要な位置づけにあることが窺える。

専門科目の配置としては、3 分野共通で「東洋学入門」（第 1、第 2 セメスター）、「専攻地域（日本）の自然・経済地理」（第 1 セメスター）、「専攻地域（日本）の歴史」（第 6 セメスター）等が配置され、専門教育の基盤としての科目として位置づけられている。また、3 分野の専門科目として、専攻言語教育とともに、第二外国語として英語を学習することになっており、「第二外国語」として第 1 セメスターから第 6 セメスターまでに 22 単位 660 時間が配当されている。国際関係論専攻と東洋学専攻においては、第二外国語として英語の学習が必須であるが、国際関係論専攻では英語が専門基盤科目の 1 科目に位置付けられているのに

(36)

対し、東洋学専攻では3分野それぞれの専門科目群の1科目として位置付けられているという点で異なる。

東洋言語学・文学分野、東洋史学分野、東洋経済学分野の3分野のいずれも専攻地域（日本）に関する言語（「専攻東洋言語学」（第5、第6、第7セメスター）等）、文学（「東洋文学」（第6セメスター）等）、歴史（「東洋史」（第4、第5、第6、第7セメスター）等）、民俗学（「専攻地域民俗学」（第7セメスター）等）、社会思想（「専攻地域の社会思想」（第7セメスター）等）、経済学（「東洋の経済」（第4、第5、第6、第7セメスター）等）といった幅広い分野を学ぶことができることが東洋学専攻の特色として挙げられるであろう。

3. 2. 修士課程における日本語専攻課程

2020-2021年度ビシケク国立大学大学院東洋国際関係学研究科修士課程の日本語専攻入学生は、国際関係論専攻外交政策分野、経済外交分野、東洋学専攻東洋言語学分野、東洋史学分野の2専攻4分野のいずれかを専門とし、日本語を専攻言語として学んでいる。大学院教育についても学士課程と同様に国家教育スタンダードで修了に必要な単位数や教育内容が規定されており、キルギス共和国教育科学省（2015d）（2017）によれば、修士課程においては標準年限2年間で合計120単位の修得が課程修了の条件の1つとなっており、その120単位は「専攻共通分野（30単位）」「専門分野（50単位）」「実習及び課題研究（30単位）」「修了判定国家資格審査（10単位）」の4つのカテゴリーの科目群から成り立っている。なお、大学院修士課程における国家教育スタンダードの運用については2021年6月時点で、国際関係論専攻は2015年、東洋学専攻は2017年に策定された国家教育スタンダードに基づきカリキュラムが編成されている。

3. 2. 1. 国際関係論専攻

2020-2021年度ビシケク国立大学大学院東洋国際関係学研究科修士課程国際関係論専攻の日本語専攻課程カリキュラムは本稿末尾の資料4の通りである。

資料4から、国際関係論専攻外交政策分野及び経済外交分野における日本語学習に関わる科目は「専攻外国語」（第1セメスター）のみであり、専門科目全体50単位1,500時間に対して4単位120時間が配当されている。学士課程における国際関係論専攻での日本語学習時間と比較すると割合が低くなっており、日本語習得よりも専門知識の獲得と専門研究が重視されているカリキュラムであることが窺える。

専門科目の配置について、国際関係論専攻では、専攻地域を扱う科目は外交政策分野科目の「専攻地域の外交政策論」（第4セメスター）の1科目であり、専攻地域である日本研究に関連する科目は少ない。日本だけではなく、アジアや独立国家共同体といったよりキルギ

スや周辺諸国との国際関係に関する科目（「アジア／独立国家共同体の統合プロセス」（第1セメスター）、「国際経済機関におけるキルギス」（第1、第2セメスター））や、外交政策（「外交政策と外交理念」（第1、第2セメスター））、経済外交（「経済外交論」（第3セメスター））に関する科目を配置し、国際関係論に関する専門的な知識をより深化させるカリキュラムとなっている。

3. 2. 2. 東洋学専攻

2020-2021年度ビシケク国立大学大学院東洋国際関係学研究科修士課程東洋学専攻カリキュラムは本稿末尾の資料5の通りである。

資料5から、東洋学専攻東洋言語学分野及び東洋史学分野における日本語学習に関する科目は「東洋言語演習」（第1、第2、第3セメスター）の1科目であり、専門科目全体50単位1,500時間に対して10単位300時間が割り当てられている。修士課程の国際関係論専攻と比較すると、2.5倍の日本語学習時間が確保されている。東洋学専攻は、国際関係論専攻とは異なり、専攻地域・専攻言語として日本や日本語を対象として研究することが求められているため、日本語学習時間が多く設定されていることが考えられる。「東洋言語演習」での日本語学習と並行して、「語用論と文体論」（第1セメスター）、「世界の文化における東洋言語と東洋文学」（第2、第3セメスター）、「世界史における東洋諸国」（第1、第2セメスター）、「専攻地域の歴史」等の専門分野の科目を履修するカリキュラム編成になっている。

学士課程との専門教育の接続については、修士課程では専門分野が東洋言語学分野、東洋史学分野の2分野となっており、学士課程では設置されていた東洋経済学分野は開設されておらず、資料5の科目一覧からは東洋経済学に関する科目も開講されていないことが窺える。

3. 3. 考察

学士課程においては言語学、国際関係論、東洋学の3専攻のいずれも専攻外国語の学習が重視されており、各学期において専攻外国語科目が配置されている。カリキュラム全体としては、第1セメスターから第4セメスターまでは、全学共通である人文学、社会学、経済学分野及び数学・自然科学分野の科目が中心に組まれているが、第5セメスターから第8セメスターの高年次には専門分野科目が多く配置されているカリキュラムとなっている。3専攻に共通して、専門分野・領域の科目については、基盤科目及び専門分野の科目を履修するため、もう一方の専門分野科目を横断して履修することはできないのが現状である。例えば、言語学専攻については異文化コミュニケーション論分野、外国語・外国文化教育の理論・方法論分野の2分野のうちどちらか1分野を専攻することになり、他分野の履修は原則認められていない。そのため、外国語・外国文化教育の理論・方法論分野専攻の学生は異文化コ

コミュニケーション論分野科目を受講することができない。したがって、外国語教育学を学ぶ機会がある専攻は言語学専攻の外国語・外国文化教育の理論・方法論分野の1分野のみとなる。日本語教師養成という観点から見れば、外国語教授法の理論や実践力の獲得は重要であり、他専攻他分野では日本語教育の方法を学ぶことなく、卒業した学生が日本語教師の職に就くことも考えられる。日本語教師養成や教師教育の充実には、先行研究でのニュージーランド（縫部、2007）、オーストラリア（縫部、2008）、韓国（李、2008）で示されている海外の大学における日本語教師養成の事例のように、学士課程での日本語教師養成を目的とした専門課程の創設や初等中等教育における外国語教員養成課程の中に日本語専攻課程を設置すること等の検討も重要となるであろう。

修士課程においては、学士課程での言語学専攻から接続する専攻課程は設置されておらず、日本語を専攻言語とし、言語学専攻の学生は国際関係論専攻、もしくは東洋学専攻の2専攻から1専攻を選択することとなる。大学院教育においては専攻言語の習得よりも専門分野に関する知識の獲得が重視されていることが窺えるが、専攻が国際関係論と東洋学という関係からも言語教育に関わる知識の獲得機会は少ない。既存の専攻での言語教育に関する科目の充実や、学士課程言語学専攻外国語・外国文化教育の理論・方法論分野から修士課程への接続の円滑化、日本語と日本語教育に関わる専攻課程の設置等の教育課程の見直しが必要であると考える。これにより、従来からの専門分野（言語学、国際関係論、東洋学等）からの日本語教師の輩出に加え、日本語教育を専門とする高度な知識と実践力を持った日本語教師養成につながると考えられる。

キルギスにおける日本語教師養成の充実については、非母語話者教師が日本語教師の多数を占め、日本からJFやJICAを中心に多くの母語話者教師が指導的立場で派遣されているというキルギスの日本語教師事情の特徴を生かした方法も検討していく必要がある。例えば、キルギス共和国日本語教師会等の既存の日本語教師コミュニティを生かし、日本語教師志望の学生や現職教師を交えた勉強会の機会を設けることや、JF日本語専門家やJICA海外協力隊日本語教育隊員といった国内外の日本語教師養成課程を修了した人材を生かし、科目担当教員やゲストティーチャーとして既存の外国語教育学に関する科目に携わる機会や、非母語話者教師の教授スキルの向上を目的とした研修機会を設けること等の方法が挙げられる。その際、日本から赴く日本語教師は、日本の価値観で現地の人々や教育を否定的に評価しないこと（佐久間、2014）、科学的に望ましい教授方法を提言したとしても、赴任国の教師間で共有されている文化と乖離する場合には受容されにくいこと（平畑、2014）に留意する必要がある。キルギスにおいてどのような価値観に基づいて教育文化が形成されているのかを把握しながら、国際協力としての日本語教育支援を行うことが重要となる。

4. 終わりに

本研究では、高等教育機関に日本語教師養成課程が設置されていないキルギスにおいて、ビシケク国立大学東洋国際関係学部学士課程と同大学大学院東洋国際関係学研究科修士課程における日本語専攻カリキュラムを取り上げ、その実態を報告するとともに、非母語話者教師養成という観点からその課題を明らかにしてきた。

ビシケク国立大学の事例から、キルギスの高等教育機関の日本語専攻課程は専攻言語の学習に重きを置いており、日本語学習を基盤として各専門分野の学習及び研究を行うという実態が明らかになった。カリキュラムの分析から、キルギスの大学における日本語教師養成の課題としては日本語教育の理論と実践を学ぶ機会が少ないことが挙げられる。大学院教育（修士課程）においては国際関係論専攻と東洋学専攻となっており、キルギス国内の大学院での日本語専攻課程において言語教育を専攻する分野は開設されていないのが現状である。2018年度日本語教育機関調査では初等中等教育の日本語学習者数が913人と全体の56.8%を占めていること（国際交流基金、2020）、そして高等教育機関の学習者数と初等中等教育機関の人数比率が逆転し、初等中等教育機関での学習者数が増加していることから（氏原、2015）、キルギスにおいては初等中等教育機関の日本語教師養成及び初等中等教育段階での日本語教育の充実が喫緊の課題であると考えられる。

学士課程において、国家教育スタンダード2015年版に基づく現行のカリキュラムでは、外国語・外国文化教育の理論や方法を学ぶ科目が設置されているが、日本語専攻課程独自のカリキュラムではなく、ビシケク国立大学東洋国際関係学部で第一外国語として専攻できる他言語（朝鮮語、トルコ語、アラビア語、ペルシャ語）の専攻課程と同様のカリキュラムであるため、日本語教育独自の方法を学ぶ機会を設けることが必要になると思われる。一方で他の外国語専攻課程と同じである現行のカリキュラムという特性を生かすことも可能である。他の外国語教員養成との課題を比較し、キルギスの大学における外国語教員養成での共通する課題の洗い出しを行い、検証することも重要である。

また、本研究で明らかにしてきたように、日本語専攻課程のカリキュラムにおいてどのような科目がどのように配置されているかだけでなく、科目シラバス等を分析し、各科目でどのような教育目標を立て、どのような教育内容を実施しているのかを検討することも必要である。さらには、キルギスの大学の日本語専攻課程を卒業、修了した現職非母語話者教師の授業にも着目し、どのような授業実践を行っているか、またその授業がどのような学習観、教師観、授業観をはじめとする価値観としての授業文化に基づいているかを検証する必要がある。これらを検証することにより、日本語非母語話者教師養成や教師教育の充実とともに、途上国における持続可能な国際協力としての日本語教育の実現にもつながることが期待される。

注

- (1) 「キルギス」の日本語表記は、中央アジア研究者によっては原語の発音に近い「クルグズ」と表記することもあるが、本稿は外務省等での表記に倣い「キルギス」とする。

参考文献

- 李熙卿「韓国の大学における日本語教員養成課程—日本語教育専攻のカリキュラムを中心として—」『無差』15、pp.75-86、京都外国語大学日本語学科研究会。
- ヴォロビヨワ・ガリーナ (2013) 「〈キルギス〉キルギスの日本語教育事情」『世界の日本研究』、pp.59-67、国際日本文化研究センター。
- 氏原名美 (2015) 「キルギス共和国日本語教育事情 頭脳流出—日本語教師のジレンマ」『アジア・日本研究センターシンポジウム報告書 2014 日本語教育から見た国際関係』 pp.15-29、 国士舘大学アジア・日本研究センター。
- キルギス共和国教育科学省 (2015a) 「キルギス共和国の高等専門教育における国家教育スタンダード 531100 学士課程言語学専攻」、キルギス共和国教育科学省。(Министерство образования и науки Кыргызской республики (2015) Государственный образовательный стандарт высшего профессионального образования Кыргызской республики: 531100 “Лингвистика” Академическая степень-Бакалавр.)
- キルギス共和国教育科学省 (2015b) 「キルギス共和国の高等専門教育における国家教育スタンダード 530800 学士課程国際関係論専攻」、キルギス共和国教育科学省。(Министерство образования и науки Кыргызской республики (2015) Государственный образовательный стандарт высшего профессионального образования Кыргызской республики: 530800 “Международные отношения” Академическая степень-Бакалавр.)
- キルギス共和国教育科学省 (2015c) 「キルギス共和国の高等専門教育における国家教育スタンダード 530900 学士課程東洋学専攻」、キルギス共和国教育科学省。(Министерство образования и науки Кыргызской республики (2015) Государственный образовательный стандарт высшего профессионального образования Кыргызской республики: 530900 “Востоковедение, африканистика” Академическая степень-Бакалавр.)
- キルギス共和国教育科学省 (2015d) 「キルギス共和国の高等専門教育における国家教育スタンダード 530900 修士課程国際関係論専攻」、キルギス共和国教育科学省。(Министерство

- образования и науки Кыргызской республики (2015) Государственный образовательный стандарт высшего профессионального образования Кыргызской республики: 530800 “Международные отношения” Академическая степень-магистр.)
- キルギス共和国教育科学省 (2017) 「キルギス共和国の高等専門教育における国家教育スタンダード 530900 修士課程東洋学専攻」、キルギス共和国教育科学省. (Министерство образования и науки Кыргызской республики (2017) Государственный образовательный стандарт высшего профессионального образования Кыргызской республики : 530900 “Востоковедение, африканистика” Академическая степень-магистр.)
- 国際交流基金 (2020) 『海外日本語教育の現状—2018年度日本語教育機関調査より』、国際交流基金. <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey2018/all.pdf> (2021年6月29日アクセス)
- 西條結人 (2020) 「孤立環境における日本語学習者の言語学習ビリーフに関する研究—キルギスの大学で日本語を専攻する学生の事例から—」『語文と教育』34, pp.78-91、鳴門教育大学国語教育学会.
- 西條結人 (2021) 「第6章 キルギス—多民族・多言語社会における教授言語別教育の現状と課題—」『アジア教育情報シリーズ3巻 南・中央・西アジア編』(大塚豊監修、小原優貴編)、pp.91-106、一藝社.
- 西條結人、ジュヌシャリエワ・アセーリ (2018) 『キルギスにおける日本学研究に関する文献目録』、Toiart Design Studio. (Юто Сайздэ, Асель Джунушалиева (2018) Библиография по японоведению в Кыргызстане, Б.: Toiart Design Studio.)
- 佐久間勝彦 (2014) 「第4章 「グローバル人材」の育成はオールジャパンで—青年海外協力隊事業をめぐる杞憂と夢想」『「グローバル人材」再考—言語と教育から日本の国際化を考える—』(西山教行・平畑奈美編)、pp.100-137、くろしお出版.
- 添田晴雄 (2012) 「教育文化研究」『比較教育学事典』(日本比較教育学会編)、pp.131-134、東信堂.
- 縫部義憲 (2007) 「日本語教員養成課程の国際比較—ニュージーランドの場合」『無差』14, pp.49-54、京都外国語大学日本語学科研究会.
- 縫部義憲 (2008) 「オーストラリアにおける日本語教員養成課程の現状と課題」『無差』15, pp.59-65、京都外国語大学日本語学科研究会.
- 縫部義憲、古別府ひづる、顔幸月、渡部倫子、佐藤礼子、小林明子 (2009) 「学校日本語教育における日本語教師が考える教師像—アジアとオセアニア地域を対象に—」『求められ

(42)

る日本語教員に日本語教員養成課程はどう応えるか」に関する総合的研究』(研究代表者: 中川良雄、課題番号: 18320084)、pp.58-81、平成18年度-平成21年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書。

平畑奈美(2014)『「ネイティブ」とよばれる日本語教師—海外で教える母語話者日本語教師の資質を問う—』、春風社。

文化審議会国語分科会(2019)「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版」https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/kokugo/kokugo_70/pdf/r1414272_04.pdf (2020年6月29日アクセス)

横山紀子(2019)「非母語話者日本語教師教育—これまでの道程と今後への展望—」『日本語文化研究会論集』15、pp.163-176、日本語文化研究会。

謝辞

本研究はJSPS科研費21K02321の助成を受けている。

また、本研究を進めるにあたり、ビシケク国立大学東洋国際関係学部マシュラポフ・タラスベック学部長、同大学同学部日本語日本文学講座のジュヌシャリエワ・アセーリ講座主任、同大学タジバエワ・タフミナ教務部長には国家教育スタンダードや授業計画等の資料提供等、多大なご支援とご協力をいただいた。深く感謝申し上げます。

資料 1 2020-21年度ビシケク国立大学東洋国際関係学部学士課程 言語学専攻科目一覧

分類	科目名称	配当セメスター (枠内: 単位数)								単位数	時間数		
		1	2	3	4	5	6	7	8				
人文学、 社会学、 経済学分 野	基盤科目	キルギス語キルギス文学	4	4							8	240	
		ロシア語	4								4	120	
		外国語 (英語)	2	2							4	120	
		キルギス史		4							4	120	
		哲学			4						4	120	
		マナス学			2						2	60	
		キルギス地理			2						2	60	
	選択科目	言語研究の方法	2								2	60	
		論理学			2						2	60	
選択科目 (社会学/文化学)					2					2	60		
数学・自 然科学分 野	基盤科目	数学・情報科学			2	4				6	180		
		環境科学		2						2	60		
	選択科目	生活安全の基礎			2					2	60		
専門分野	専門基盤 科目	言語学原論							6	6	180		
		古代言語と文化		2						2	60		
		第一外国語演習	10	10	10	9	10	4			53	1,590	
		第二外国語演習	2	3	5	5	4	3			22	660	
	異文化コ ミュニ ケーシ ョン分 野科 目	第一外国語運用演習						5	9	8	22	660	
		第二東洋言語			4	2	5	5	5	3	24	720	
		東洋言語史	4								4	120	
		東洋言語研究原論					2	2	4		8	240	
		対照言語学・類型論					2				2	60	
		記号論							2		2	60	
		異文化コミュニケーション論	2	2							4	120	
		通訳・翻訳論					3				3	90	
		研究原論					4				4	120	
		学生による専門選択科目					3	3	3	3	12	360	
		外国語・ 外国文化 教育の理 論・方法 論分野科 目	第一外国語運用演習						5	9	8	22	660
			第二東洋言語			4	2	5	5	5	3	24	720
	異文化コミュニケーション論入門		2	2							4	120	
	外国語教育学原論								4		4	120	
	外国語教授法・方法論						3				3	90	
	語彙論								2		2	60	
文法論						4	2			6	180		
言語史	4									4	120		
研究原論						4				4	120		
学生による専門選択科目						3	3	3	3	12	360		
学年専門研究	学年専門研究		1		1		1			3	90		

実習	言語実習				3					3	60
	専門分野実習						5			5	120
	卒業判定前実習								7	7	180
卒業判定国家資格 審査	英語総合試験						1			1	30
	キルギス語・キルギス文学、 キルギス史、キルギス地理				1					1	30
	東洋言語								2	2	60
	言語学・専門分野								2	2	60
	学位論文審査								4	4	120
	体育										400
										240	7,200

出所：2020-21年度ビシケク国立大学東洋国際関係学部学士課程言語学（531100）専攻授業計画（訳は拙訳）

* ビシケク国立大学は学士課程、修士課程共にセメスター制が採用されている。表中「配当セメスター（枠内：単位数）」における数字は、1：第1セメスター（1年次前期）、2：第2セメスター（1年次後期）、3：第3セメスター（2年次前期）、4：第4セメスター（2年次後期）、5：第5セメスター（3年次前期）、6：第6セメスター（3年次後期）、7：第7セメスター（4年次前期）、8：第8セメスター（4年次後期）に対応している。以下の資料も同じ。

資料2 2020-21年度ビシケク国立大学東洋国際関係学部学士課程 国際関係論専攻科目一覧

分類	科目名称	配当セメスター（枠内：単位数）								単位数	時間数	
		1	2	3	4	5	6	7	8			
人文学、 社会学、 経済学分 野	基盤科目	キルギス語キルギス文学	4	4							8	240
		ロシア語	4								4	120
		外国語（英語）	2	2							4	120
		キルギス史		4							4	120
		哲学			4						4	120
		マナス学				2					2	60
	選択科目	キルギス地理			2						2	60
		論理学			2						2	60
数学・自然 科学分 野	基盤科目	学生による選択科目			2	2				4	60	
		数学・情報科学			6					6	180	
	環境科学	2								2	60	
専門分野	専門基盤 科目	選択科目				2				2	60	
		専攻外国語（第1レベル）	10	10	8	8					36	1,080
		第二外国語	2	3	5	5	4	3			22	660
		政治史	4								4	120
		国際関係論の理論と歴史					4	4			8	240
		現代の国際関係と世界政治					4				4	120
		外交政策と現代キルギス外交					4				4	120
グローバル関係の視点による 世界とキルギスの経済と政治 プロセス							4		4	120		

		現代の国際関係におけるグローバル課題と世界政治							4		4	120
		グローバルと地域の安全保障：テロリズムと過激主義の闘争							4		4	120
		政治史研究の方法（研究原論）	2	2							4	120
		国際関係と外交理念						6			6	180
外交政策分野科目		外交政策と外交		4							4	120
		専攻外国語（第2レベル）			3	10	6	10	7		36	1,080
		アジアの近代化プロセスと変化			2						2	60
		国際関係システム比較			2						2	60
		外交儀礼とエチケット							4		4	120
		ユーラシア経済同盟：国内政治と外交政策における統合							4		4	120
		学生による選択科目				4	4	4	4		16	480
	外交・領事事務分野科目		国際法							4		4
		キルギス外交史							2		2	60
		専攻外国語（レベル2）			3	10	6	10	7		36	1,080
		外交・領事事務							4		4	120
		外交文書			4						4	120
		キルギスの外交政策理念と外交・領事事務の課題		2							2	60
		学生による選択科目				4	4	4	4		16	480
学年専門研究		学年専門研究		1	1		1		1	3	90	
実習		言語実習			3						3	60
		専門分野実習					5				5	120
		卒業判定前実習							7		7	180
		英語総合試験					1				1	30
卒業判定国家資格審査		キルギス語・キルギス文学、キルギス史、キルギス地理			1						1	30
		専攻外国語							2		2	60
		国際関係論の理論と歴史							2		2	60
		学位論文審査							4		4	120
		体育										400
											240	7,200

出所：2020-21年度ピシケク国立大学東洋国際関係学部学士課程国際関係論（530800）専攻授業計画（訳は拙訳）

資料3 2020-21年度ビシケク国立大学東洋国際関係学部学士課程 東洋学専攻科目一覧

分類		科目名称	配当セメスター (枠内: 単位数)								単位数	時間数	
			1	2	3	4	5	6	7	8			
人文学、 社会学、 経済学分 野	基盤科目	キルギス語キルギス文学	4	4								8	240
		ロシア語	4									4	120
		外国語 (英語)	2	2								4	120
		キルギス史		4								4	120
		哲学			4							4	120
		マナス学				2						2	60
		キルギス地理			2							2	60
	選択科目	東洋学研究の方法	2									2	60
		論理学			2							2	60
		学生による選択科目 (経済学、 文化学、社会学)				2						2	60
数学・自然 科学分 野	基盤科目	数学・情報科学			2	4					6	180	
		環境科学		2							2	60	
	選択科目	生活安全の基礎			2						2	60	
専門分野	専門基盤 科目	東洋学入門	4	4							8	240	
		専攻東洋言語	10	9	9	10	10	7	10	7	72	2,160	
		専攻地域の歴史		4				4			8	240	
		専攻地域の自然・経済地理	2								2	60	
		専攻地域の宗教史							2		2	60	
		通訳・翻訳の理論と実践							4		4	120	
		専攻地域の文学史								4	4	120	
	東洋言語 学・文学 分野科目	専攻東洋言語学					4	4	4		12	360	
		東洋文学						6			6	180	
		言語学入門	2	2							4	120	
		言語学総論					2	2			4	120	
		文学研究入門			4						4	120	
		第二外国語	2	3	5	5	4	3			22	660	
		学生による選択科目					4	4	4	2	14	420	
		東洋史学 分野科目	東洋史				2	4	4	2		12	360
	キルギスに関する東洋史料								6	6	180		
	歴史研究の理論と方法			4						4	120		
	東洋史料研究					4				4	120		
	専攻地域民俗学							2		2	60		
	専攻地域の社会思想							2		2	60		
	第二外国語	2	3	5	5	4	3			22	660		
	学生による選択科目					4	4	4	2	14	420		
	東洋経済 学分野科 目	東洋の経済				2	4	4	2		12	360	
		ミクロ経済学・マクロ経済学			4						4	120	
		世界経済経営論					4				4	120	

	東洋国際経済関係論					4			4	120	
	経済学史					2			2	60	
	東洋の新興国						4		4	120	
	第二外国語	2	3	5	5	4	3		22	660	
	学生による選択科目					4	4	4	2	14	420
学年専門研究	学年専門研究		1		1		1		3	90	
実習	言語実習					3			3	60	
	専門分野実習						5		5	120	
	卒業判定前実習							7	7	180	
卒業判定国家資格 審査	英語総合試験						1		1	30	
	キルギス語・キルギス文学、 キルギス史、キルギス地理				1				1	30	
	東洋言語							2	2	60	
	言語学・専門分野							2	2	60	
	学位論文審査								4	4	120
	体育									400	
									240	7,200	

出所：2020-21年度ピンケク国立大学東洋国際関係学部学士課程東洋学（530900）専攻授業計画（訳は拙訳）

資料4 2020-21年度ピンケク国立大学大学院東洋国際関係学研究科修士課程 国際関係論専攻科目一覧

分類	科目名称	配当セメスター（枠内：単位数）				単位数	時間数	
		1	2	3	4			
専攻共通 分野	基盤科目	国際関係論と国際政治学の歴史と研究方法		4		4	120	
		国際関係論と国際政治学の現代の諸問題		3		3	90	
		外交活動におけるIT	4			4	120	
		専攻外国語	4			4	120	
	選択科目	第二外国語（英語）	4	4	2	10	300	
	国際関係論と現代		3	2	5	150		
専門分野	専門基盤 科目	国際関係論における言説研究方法論	4			4	120	
		現代のグローバルセキュリティ	2			2	60	
		アジア／独立国家共同体の統合プロセス	4			4	120	
		国際政治経済学		4		4	120	
		キルギスの外交政策における優先事項				4	4	120
		テーマ別外国語				2	2	60
		修士課程学生による選択科目			2	3	5	150
	外交政策 分野科目	外交政策と外交理念	4	4		8	240	
		外交論：教訓と手腕			6	6	180	
		専攻地域の外交政策論				4	4	120
	修士課程学生による選択科目	2	2	3	7	210		

(48)

経済外交 分野科目	国際経済機関におけるキルギス	4	4			8	240
	経済外交論			6		6	180
	現代の国際紛争における経済的要因				4	4	120
	修士課程学生による選択科目	2	2	3		7	210
実習及び課題研究	科学研究実習	2	4	4	10	20 (10週)	1週 = 2単位
	科学教育実習			10		10 (5週)	1週 = 2単位
	課題研究						
修了判定国家資格 審査	東洋言語				2	2	
	国際関係論の歴史と理論				2	2	
	修士論文の準備と審査				6	6	
						120	

出所：2020-21年度ビシケク国立大学大学院東洋国際関係学研究科修士課程国際関係論専攻（530800）授業計画（訳は拙訳）

資料5 2020-21年度ビシケク国立大学大学院東洋国際関係学研究科修士課程 東洋学専攻科目一覧

分類	科目名称	配当セメスター（枠内：単位数）				単位数	時間数
		1	2	3	4		
専攻共通 分野	基盤科目	東洋学研究の歴史と方法論		4		4	120
		外国語（西洋言語）	4	3		7	210
		東洋学研究活動におけるIT	4			4	120
	選択科目	東洋学の歴史と理論	3	3		6	180
		東洋学研究の方法	3	2		5	150
		修士課程学生による選択科目	2	2		4	120
専門分野	専門基盤 科目	東洋言語演習	4	4	2	10	300
		東洋学の現代の諸問題		2	4	6	180
		修士課程学生による選択科目	4	3	2	9	270
	東洋言語 学分野科 目	世界の文化における東洋言語と東洋文学		2	3	5	150
		専攻地域言語文法論			4	4	120
		東洋言語比較文法論			2	4	180
		語用論と文体論	4			4	120
		修士課程学生による選択科目			6	6	180
		東洋史学 分野科 目	世界史における東洋諸国	2	4		6
	東洋史史料研究				4	4	120
	歴史編纂学と専攻地域の歴史				4	4	120
	現代の東洋学				4	4	120
	専攻地域の歴史		4			4	120
	修士課程学生による選択科目				3	3	90

実習及び課題研究	科学研究実習		4	6	10	20 (10週)	1週 = 2 単位
	科学教育実習			10		10 (5週)	1週 = 2単位
	課題研究						
修了判定国家資格 審査	東洋言語				2	2	
	専攻言語文法論（東洋言語学分野） もしくは東洋学の歴史と理論（東洋 史学分野）				2	2	
	修士論文の準備と審査				6	6	
						120	

出所：2020-21年度ビシケク国立大学大学院東洋国際関係学研究科修士課程東洋学専攻（530900）授業計画（訳
は拙訳）

（さいじょう ゆうと・四国大学、広島大学大学院在学）